1　ゴマフアザラシの赤ちゃんの名付け親となった椋田夏葵さん。　2　「フウ」です。水族館で待ってるよ。みんな、会いに来てね。　3 1日子ども館長の委嘱を受ける京極清華さん（写真左）と宮郷良太くん（写真右）。

宮島水族館開業２周年

毎年8月1日は、宮島水族館の日

８月１日、宮島水族館が開業２周年を迎えました。

館内では記念イベントが開かれ、４月18日に誕生したゴマフアザラシの命名式や、１日子ども館長の委嘱式が行われました。

今回、名付け親に選ばれたのは椋田夏葵さん（海田小学校２年生）。名前は「フウ」に決まりました。椋田さんは「写真をみて、ふわふわとしてかわいいから『フウ』と名付けました」と話してくれました。

また、この日１日館長に任命された宮島小学校３年生の宮郷良太くんと同校４年生の京極清華さんはアシカライブの参加や、ペンギンの餌やりなどを体験しました。

宮島水族館館長塚本博一さんは「開業２周年を迎え、訪れた人が何度でも来たいと思えるような取り組みをしたいです」と話してくれました。

山陽女子短期大学との連携協定

「食」や「健康」の分野で、特色を生かす

８月７日、山陽女子短期大学と廿日市市は、包括的連携協力に関する協定を締結しました。

今年、同短大は開学50周年、市は市制施行25周年の節目の年にあたります。両者は長年にわたり、公開講座の開催や、生涯学習分野での協力を続けてきました。今後も、同短大の研究成果や、学生・教職員などの人材をまちづくりに生かし、より一層協力関係を深めていきます。

協定書に調印し、硬く握手を交わす石永正隆学長（左）と眞野勝弘市長（右）。

1　地元吉和子ども神楽団による演目「大江山」。　2　第２部会場の吉和グラウンド　3　大松しんじさんによる歌謡ショー。　4　第１部で行われたあまごのつかみ捕り。子どもたちの歓声が親水公園に響いた。　5　地元の女性で結成された「吉和アロハフラ」によるフラダンス。　6　約３万本のひまわりが大輪の花を咲かせたひまわり畑。記念写真を撮る家族連れでにぎわった。　7　吉和の空を彩った2500発の打ち上げ花火。

吉和夏まつり

2500発の花火が、吉和の夜を彩る

８月15日、吉和夏まつりが開催されました。

第１部の会場となった国道186号沿いのひまわり畑では、約1.5haに植えられた約３万本のひまわりがお出迎え。また、親水公園では、あまごのつかみ獲りが行われ、捕ったあまごはその場で塩焼きに。涼を求める家族連れでにぎわっていました。

昼からの突然の雨も夕方には上がり、第２部は吉和グラウンドを会場にスタート。ステージでは、地元吉和子ども神楽団を始め、たくさんの催しで盛り上がりました。

「吉和を訪れた人に、吉和の良さを知ってもらいたいですね」と、吉和夏まつり実行委員会会長の梶本正五さん。当日の来場者は約７千人。市制施行25周年を記念し、2500発の花火が吉和の空を彩り、まつりの最後を締めくくりました。

My Town Topics —まちのわだい— まちの旬な話題を提供します

1・6　晴天に恵まれ、気温も高かったまつり会場。会場横を流れる小瀬川では、水辺で遊んだり、涼をとったりする人が多く見られました。　2　栗栖神楽団による神楽舞。　3　まつりのシンボル竿灯（かんとう）。夜の会場を彩りました。　4　佐伯名物かかしも参加。店先で訪れた人を和ませました。　5　森進一のそっくりさん「森進伍さん」による歌謡ショー。客席に降りてのパフォーマンスに会場は盛り上がりました。　7　ステージでは１日を通し、さまざまな演目が繰り広げられました。写真はステージを見つめる来場者。

さいき水まつり2013

水辺でホットなひと夏の思い出作り

７月27日、さいき水まつりが岩倉ファームパークで開催されました。会場中央の広場では屋台が立ち並び、大勢の来場者でにぎわいました。また、当日は天気もよく、会場横を流れる小瀬川では水辺で泳ぐ人や、水遊びをする人が多く見られ、魚のつかみ獲りなどのイベントも開催されました。

地元佐伯高校の生徒も応援に駆けつけ、まつりの準備を手伝いました。佐伯高校２年生の松林達也さんは「にぎやかな祭りになってうれしいです。忙しいですが、充実しています」と話してくれました。

当日の来場者は８千人。日が沈んだ後も、ステージでは歌謡ショーや、栗栖神楽団による神楽舞が披露されました。祭りの締めくくりには1800発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を焦がしました。

廿日市おおの賑わい市

廿日市の「おいしい」が大集合

８月３、４日、大野支所を会場に「廿日市おおの賑わい市」が開催され、市内各地の特産品などを販売する36店舗が出店しました。

この催しは、大野支所敷地を核に、賑わい創出の拠点整備を総合的に検討するための実証実験として開催。賑わい施設〈道の駅〉推進協議会会長の滝口義明さんは「この催しをきっかけに、大野だけではなく、廿日市全域を盛り上げるような道の駅の構想を練っていきたい」と話しました。

写真は３日の会場の様子。この日来場した田中亜矢乃さん（大野１丁目）は「大野が活性化されるきっかけになればうれしい」と話してくれました。

2013はつかいち平和の祭典　平和学習

「はだしのゲン」に込めた思いを感じてほしい

戦争の悲惨さや、平和について学ぶ「2013はつかいち平和の祭典」の平和学習が、７月30日、さくらぴあ大ホールで行われました。

今回は、映画「はだしのゲン（実写版）」が午前・午後の２回上映され、約千人の参加者が戦争や平和について考えました。

午後の上映前には、原作者の故中沢啓治さんの妻のミサヨさん（70）が講演。作品に対しての啓治さんの思いを話してくれました。

自身も原作の制作に携わったというミサヨさん。「主人はいつも『平和ほど大切なものはない』と言っていました」と、平和の大切さを訴えました。

南三陸町で体験交流会に高校生が参加

人ごとではない震災後の状況を学ぶ

廿日市市在住の森香純さん（観音高校３年）と、田野原楓さん（廿日市高校３年）が、宮城県南三陸町での体験交流会に参加しました。

二人は、ジュニアリーダーとして、７月22日から５日間、仮設住宅に住む人などとの交流を通じて、震災について学習。「実際に行かないと分からないことが多かったです」と、田野原さん。森さんは、「見聞きしたことを地域に伝えなければと思いました」と話してくれました。

二人は７月29日、奥教育長を表敬訪問し、交流会で学んだことを報告しました。写真左から森香純さん、奥典道教育長、田野原楓さん。